

周亜平氏による多嚢胞卵巣症候群を肥満と非肥満者で分ける治療経験

銭華、毛冠群、李偉、毛飛、姚逸、指導：周亜平

江蘇大学医学院・附属医院中医内科，江蘇 鎮江 〒212001

一. 概要

多嚢胞卵巣症候群（Polycystic ovary syndrome, PCOS）は出産可能な年齢の女性によく見られる内分泌及び代謝異常な疾患であり、長期間無排卵、男性ホルモン高いのが特徴であり、臨床症状は希発月経や閉経、肥満、多毛、ニキビ、不妊、黒色表皮症等である。江蘇大学附属医院中医内科周亜平主任医師は鎮江市の有名な中医師であり、長期間の臨床治療をまとめ、肥満者と非肥満者における発病メカニズムの違いにより、漢方もそれに分けて治療し、益腎和血調周法を使い、漢方を内服しながら、外用の温宮活血方で下腹部を温め、PCOS に良い治療結果を得た。

二. 病因病機

PCOS は中医学の月経後期、月経過少、閉経、不妊に属される。

腎は精を蔵し、生理周期を司るため、PCOS の本質は腎虚である。

a.肥満者には脾虚で水湿代謝が低下、痰湿が陽気を抑制、子宮が暖まず、肥満・多毛・ニキビ・月経後期や閉経になる。

b.非肥満者には、腎精不足のため、衝脈任脈の気血が乏しく栄養が子宮に届かず、月経後期、閉経、不妊になる。

三. 弁証論治

分類	症状	弁証	治法（内服；外用）
非肥満者	舌淡紅、脈細	腎陰虚 or 腎陰陽両虚	補益腎陰腎陽；温煦活血
肥満者	舌胖大、苔白や膩、脈沈細緩	脾腎両虚、痰湿内蘊	健脾化痰除湿；辛温通透

a.内服

生理周期療法	内服	加減
生理中処方、5日間	当帰、益母草、牛膝、川芎、沢蘭、紅花、陳皮、白芍、鹿角片	肥満＋桂枝、茯苓 非肥満＋生地黄、北沙参
生理後処方、7日間	熟地黄、菟絲子、当帰、続断、桑寄生、山茱萸、白芍、山藥	肥満＋茯苓、薏苡仁 非肥満＋生地黄、北沙参
生理間処方、5日間	生地黄、菟絲子、巴戟天、鹿角片、川芎、牛膝、莪朮、当帰	肥満＋皂角刺、水蛭 非肥満＋赤芍、紅花

生理前処方、10-15 日間	黄耆、続断、菟絲子、淫羊藿、生地黄、桑寄生。	肥満 + 白朮、蘇葉 非肥満 + 赤芍、白芍
----------------	------------------------	---------------------------

b.外用：毎日 1 回下腹部に蒸気で温める。生理中には止める。

分類	外用処方名	内容
肥満者	暖宮活血 1 号方	桂枝 30g、艾葉 30g、透骨草 20g、蘇葉 20g、伸筋草 20g、莪朮 20g、花椒 20g。
非肥満者	暖宮活血 2 号方	桂枝 20g、艾葉 30g、透骨草 20g、蘇木 20g、伸筋草 20g、莪朮 20g、川芎 20g、当帰 20g。

四. 典型症例

症例 1

女性 27 歳、MRI は 23、初潮 15 歳、8-9 日/30-35 日。初診 2014.3.21、生理 8 日目。不妊 2 年間、この 3 年間に 50~90 日周期で、量が少ない、おりものも少ない。最終生理：2014.3.13、舌赤、苔白やや膩、脈細澁尺弱。超音波：両側卵巣に多嚢状変化、生理 3 日目血液検査結果：

テストステロン(ng/L)	E ₂ (ng/L)	LH (IU/L)	FSH (IU/L)	PRL(μg/L)	P(μg/L)
2.1	48	1.79	6.94	8.81	0.48

弁証：腎陰虚+瘀濁 内服：(以下の順番で服用)

生理後処方 7 日間 (補腎滋陰)	生地黄、北沙参、熟地黄、当帰、続断、桑寄生、山茱萸、白芍各 10 g、菟絲子 20 g 山薬 15 g。
生理間処方 5 日間 (補腎活血助陽)	生地黄、巴戟天、鹿角片、川芎、赤芍、牛膝、莪朮、当帰各 10 g、菟絲子 15 g、紅花 6 g。
生理前 14 日間 (益気補腎活血)	黄耆、菟絲子各 15 g、続断、淫羊藿、生地黄、桑寄生、赤芍、白芍各 10g
生理中処方 5 日間 (活血調経)	益母草 15g、当帰、牛膝、川芎、沢蘭、白芍、生地黄、北沙参、陳皮各 10g、紅花、鹿角片各 6g。

外用：暖宮活血 2 号方、毎日 1 回、生理中に止める。

結果：3 か月後、生理周期 35~40 日になる。2014.8.22 に HCG > 5000IU/L、β-HCG 8457.61 IU/L、P 21.4 μg/L、妊娠した。補腎養血安胎 3 か月服用

症例 2

女性 23 歳、MRI は 33、未婚、初潮 15 歳、2-3 日/90-180 日。初診 2013.5.11、肥満、多毛、最近 2 年間生理周期 3-6 ヶ月、量が少ない、2-3 日終了、おりものサラサラで量が多い。額にニキビ多発、腰のたるさと胸の張りは無し、食欲正常、便溏、舌淡い胖大、苔白、脈沈細緩。超音波：子宮内膜 7.2mm、両側卵巣が多嚢状変化、ホルモン値：

検査時期	テストステロン (ng/L)	E ₂ (ng/L)	LH (IU/L)	FSH (IU/L)	PRL (μ g/L)	P (μ g/L)
漢方服用前	9.4	46	8.65	7.07	8.25	0.82
漢方服用 3 ヶ月後	7.5	73	4.5	4.6	9.37	0.5

弁証：脾虚＋痰湿 最近生理は 3 ヶ月来なく、子宮内膜薄い、生理間処方から始まる。

内服：(以下の順番で服用)

生理間処方 7 日間 (補腎活血助陽)	生地黄、巴戟天、鹿角片、川芎、牛膝、菝葜、当帰、皂角刺各 10g、菟絲子 30g、水蛭 6g。
生理前処方 14 日間 (益気健脾、補腎活血)	黄耆 15g、菟絲子各 20g、続断、淫羊藿、生地黄、桑寄生、蘇葉、白朮各 10g。
生理中処方 5 日間 (活血調経)	益母草 15g、当帰、牛膝、川芎、沢蘭、白芍、生地黄、茯苓、陳皮各 10g、紅花、桂枝、鹿角片各 6g。
生理後処方 7 日間 (補腎滋陰、健脾化湿)	熟地黄、茯苓、当帰、続断、桑寄生、山茱萸、白芍各 10g、菟絲子、山藥各 15g。

外用：暖宮活血 1 号方、毎日 1 回、生理中に止める。

結果：3 ヶ月後に、生理周期 30-35 日になり、ニキビが減り、再検査のホルモン値は前ページに表示。引き続き 3 ヶ月服用し、生理周期はほぼ正常。超音波：子宮と両側卵巣の異常無し。

五. 結論

周亜平先生は弁証論治の上に、BMI による体質弁証を加え、肥満者の脾虚痰湿体質に、補腎しながら健脾化痰除湿薬を使い、外用方は辛温通透生薬を中心に治療している。また非肥満者は腎虚体質で補益腎陰腎陽、外用方は温煦活血生薬を中心に行っている。

以上のような益腎和血調周法は、内服漢方と外用の暖宮活血方を併用し、PCOS の治療効果が顕著であるので、今後の臨床で広く活用していきたい。